



～ 学習技能の質的な向上を ～

校長 岡留 祐宏

新年度が始まって1か月余り。新鮮な気持ち、ほどよい緊張感を持って過ごした4月。先日の連休で、ちょっと一息つきました。1年生も学校生活に慣れ、元気に過ごしています。また、5月9日には、「土曜授業」がスタートしました。今後、毎月第2土曜日(10月と1月は第4土曜日、8月と3月は除く)に実施します。

さて、それぞれの学年で、学習の時間の約束事を確かめ、学習技能の向上と学習内容の確実な定着に努めています。「聞く、話す、読む、書く」等は学習活動を支える大事な技能です。例えば、「聞く」ことで考えてみると、低学年の子どもたちには、「話す人の顔を見て、大事なことを落とさないように聞く」ことを求めています。中学年になると、「話の中心に気を付けて聞き、質問したり、感想を述べたりする」力を育てたい。高学年では、「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えと比べながら考えをまとめる」ことができるようにしたいと考えています。「しっかり聞く」という外見的な姿とともに、聞き方の質的な向上を図っていきたくと考えています。

一朝一夕には身につかない技能の向上ですが、同じことの繰り返しのようでも、少しずつ質的な向上を図る意図的な働きかけをしていく必要があります。4月からの各学年の学級通信等を見ると、「音読や暗唱カード」「辞書引き」「家庭読書」「自主学習の取組」「新聞記事の活用」等の取組が記されています。いずれも、確かな学力形成の基盤になるものです。どんな音読の仕方を求めているのかなど、どんな力を育てる意図を持った取組かを子どもたち自身にも意識させながら、技能の質的な向上に継続的に取り組んでいきたくと思います。



土曜授業後の集団下校指導

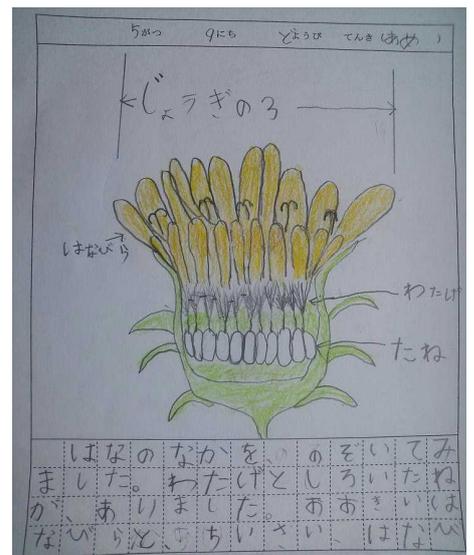
「よく見る」って、どうすることなの？

1年生の生活科の学習でのことです。タンポポの花の観察をするために、虫眼鏡や顕微鏡を使って細かいところまで見た後、担任の先生と一緒に、花のつくりを確かめながらえに描いていました。4人の1年生が右のような細かいところまでよく見て描いた絵を描いていました。

「描くものをよく見て」と、私たちは子どもたちに言いますが、低学年の子どもたちには、「よく見る」とはどうすることなのかが、実はよくわからないことが多いです。「見えてはいるけれど、ここは〇〇のようになっている」ということ認識されていないことが多いです。

しかし、細かな一つ一つの部分を確かめさせて、それを大きく描かせることで、1年生の子どもたちがこんなふうに描けるということを改めて感じました。

また、2年生は国語の学習で「タンポポのちえ」を学習し、実際に種を種をまいて栽培しながら、タンポポの研究をしています。種が芽を出した様子が文章としてわかりやすく記してあります。絵や文章で「よ



むし歯の状況改善！

ご承知のように、う歯治療の促進に地区全体で取り組んでいます。本年度の歯科検診の印象は、「全体的にむし歯数が減っており、口の中がきれいに保たれている」ということです。「一度治療した歯が、またむし歯になる」といったことが随分減っているようです。子どもたちの努力やとともに、ご家庭のご協力に感謝いたします。